



くれよん あんず組 11月号



日中と朝晩の寒暖差が大きく、体調管理や洋服を選ぶのが難しい時期ですね★

園庭のみかんの木 🍎 も実を大きく膨らませ、色も緑から少しずつ黄色へと変わっています。その変化に気付く子どもは、大人の腕を引っ張り大きくなっていることを教えてくれます。この緑色の大きな丸が今後どのように変化していくのか子どもたちも期待に胸を膨らませています😊

そんな子どもたちですが、あんず組になって半年が過ぎました。4月の頃と比べると1人で靴下を履いたり、洋服を来たり脱いだりする等出来る事が増えてきました。中でも、“こんなことが言えるようになりました”“2~3語文で話してくれます”とノートに書いてきてくれる方も多くいるように、おしゃべりが上手になっています。今までは保護者や保育者などと過ごすことで満たされてきましたが、段々と周りの友だちに興味が出てきて一緒に遊び楽しむ姿が見られるようになってきました。

今回のくれよんでは【友だちとの関り】について触れて行こうと思います♪

【友だちとの関りについて】

前述にもあるようにあんず組では徐々に周りの友だちに興味を持ち始め一緒に遊ぶ姿が見られるようになりました。友だちが楽しく遊んでいる様子を見ると「入れて」「貸して」と声をかけてみたり、大人が「まだ〇〇くん/ちゃんが遊んでいるから終わったら遊ぼうね」などと声をかけると「じゃあここで待っているね」と言って座って待つ姿も見られます(^_^)♪

友だちに声をかけられた子も「いいよ」「ダメ」「まってね」と返事をしてくれます。自分が思っていたことと違う返事が来ると、「やりたい」「いっしょに」と泣いてしまう事もあります。大人が気持ちを受け止めていると、それに気付いた子が近づいて一緒に頭をなでなでしてするなど思いやる気持ちも出てきています。玩具や食事など同じ空間で楽しさを共有していく中で、様々なことに興味を持ち【友だち】という存在にも気付いている最中です。

関りが増える一方で、【ことば】で伝える事はまだまだ難しい年齢です。上記の出来事は言葉で関わる事ができた一例で、自我が芽生え「自分で〇〇をしたい」「自分の気持ちをどんな言葉で伝えたらいいかわからない」時期でもあるので、簡単な行動=《叩く》《押す》《噛む》などの行動に繋がる事もあります。

言葉で伝える事が難しい時は、1人1人の発達段階に合わせ、「〇〇したかったんだね」と気持ちを受け止めながら、「〇〇とって言うんだよ」などのように簡単で分かりやすい言葉で伝えています。トラブルがあった際は「してはいけないこと」「〇〇したら痛いこと/悲しい事」を伝え、双方の気持ちを受け止めつつ、言葉で伝えられるよう繰り返し知らせています。そして、1人1人の空間や遊ぶ場所の確保、複数の玩具を用意して十分に遊べるような配慮もしています。

友達と関わることは遊びの中だけでなく、日々の生活を通して様々な場面で機会があります。そこでの積み重ねが“関わり方を知る(学ぶ)”ことに繋がっていきます。そのために保育者ができることとして、安心して過ごせるように子どもの気持ちに寄り添いながら関わり、お友達と遊ぶ楽しさや言葉で伝えられる嬉しさを一緒に感じ、伝えていきたいと考えています◆